

身近な地質スポット

愛知県安城市～碧南市／「油ヶ淵」

愛知県唯一の天然湖沼と言われる油ヶ淵の紹介です。

油ヶ淵は、愛知県安城市と碧南市の境に位置し、周囲 6.3km、面積 0.64km²、平均水深 3m、海水と淡水の混じりあった汽水をたたえる浅い湖沼です。(写真1)

環境省では、「湖と沼は厳密には区分されていない」としていますが、それでも、湖は「四面を陸地で囲まれて中に水をたたえたもの。池・沼などより大きく中央部に沿岸植物の侵入を許さない深度(5～10m以上)を持つもの」、沼は「深さ5m以下で底は泥深く、クロモ、フサモなどの沈水沿岸植物が生えている湖沼をいう」としており、この文面からすれば、油ヶ淵は「沼」に分類されます。



写真1 油ヶ淵の空中写真(出典: GoogleEarth)

流入する河川には、東より朝鮮川、半場川、長田川、稗田川があり、西より高浜川、新川、蜷川を通じて衣浦湾に流出しています。排水路はどれも人工的に開削された河川であり、ここにドラマがありました。

400年以上前の油ヶ淵一帯は、北浦と呼ばれる海の入江でした。図1はそのころの海岸線を想定したもので、緑は現在の段丘面(標高の高い場所)、水色は低地です。おおむね水色部が海であったと想定されます。



図1 400年以上前の海岸線(想定)

(出典: 地質調査総合センター地質図Navi に加筆)



図2 調査地周辺の活断層図

(出典: 活断層詳細デジタルマップ)

現在の矢作川はまだなく、高浜川、新川もありません。油ヶ淵一帯は海の底です。内海となった原因は、10万年ほど前の地震で断層が発生、油ヶ淵一帯が沈込み、南側段丘面がせり上がったためです。(図2)

ここまでは自然現象による地形の形成過程ですが、慶長10年(1605年)江戸幕府の命により、現在の矢作古川流域の水害対策として、矢作新川(現矢作川)の開削が行われました。(図3)

現在の西尾市の水害は減少したものの、勾配が急であった矢作新川の開削・運搬作用により、北浦に上流の土砂が大量に堆積しました。このため、10年ほどで米津から鷺塚まで砂州でつながってしまい、島であった鷺塚は陸続きとなりました。(図4)

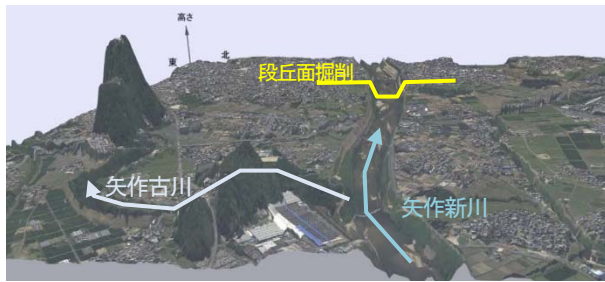


図3 矢作新川の掘削（縦横比 10 : 1）
（出典：国土地理院 電子国土 web）



図4 米津-驚塚間の砂州（縦横比 10 : 1）
（出典：国土地理院 電子国土 web）

これにより、北浦に流れ込む4つの河川の排水がままなくなりますが、幕府は正保元年（1644年）米津-驚塚間に堤防を築き、とうとう北浦は海から切り離され、湖沼となりました。これが油ヶ淵のはじまりです。（油ヶ淵は愛知県唯一の天然湖沼です）

新田開発が進む油ヶ淵一帯（図5）からの排水は東浦に向けて行われていましたが、矢作新川から供給される土砂とのせめぎあいが1690年ごろまで続きます。

排水先はこのころまでに現在の蜷川へと移っていましたが、排水対策は新たな局面へと進展していきます。



図5 油ヶ淵一帯の水田地帯（縦横比 10 : 1）
（出典：国土地理院 電子国土 web）



図6 新川上流より下流を望む（縦横比 10 : 1）
（出典：国土地理院 電子国土 web）

宝永2年（1705年）排水対策を油ヶ淵の西側に求め、新川の開削が行われます。現在の金山町から道場山町に抜ける大工事です。（図6）

標高差5mはあったであろう段丘面を掘削し、排水路を建設しました。

こうして、排水対策に一旦決着が付き、油ヶ淵一帯では新田開発が進みます。

しかし、明治14年（1881年）に明治用水が通水すると、周辺の新田開発が活発となり、明治用水からの落ち水が河川を通じ、油ヶ淵に流入することとなります。

このため、豪雨に見舞われると沿岸の水田は冠水し、被害が続くため、昭和6年（1931年）高浜川の掘削がはじまり、昭和10年（1935年）に完成、300年以上続いた排水問題はようやく解決されました。

高浜川は、油ヶ淵の排水はもとより、稗田川の水を直接衣浦湾に排水させる水路です。

稗田川の下流部、金山-丸山間の流れを逆転させています。

図7に一連の排水事情をまとめました。



- ① : 1605 年 矢作新川開削
- ② : 1615 年 米津・鷺塚間砂州形成
- ③ : 1644 年 米津・鷺塚間築堤
- ④ : 1650～1690 年ごろ 東浦・平七排水路
- ⑤ : 1705 年 新川開削
- ⑥ : 1881 年 明治用水通水
- ⑦ : 1935 年 高浜川開削

図7 油ヶ淵一带の排水事情時系列図

(地図の出典：国土地理院 電子国土 web に加筆)



写真2 油ヶ淵遊園地（花しょうぶ園）



写真3 油ヶ淵水辺公園（水生花園）



写真4 油ヶ淵水辺公園（自然ふれあい生態園）



写真5 油ヶ淵の様子

余談ですが、

この地質スポットの近くにはこんなお店がありました。

麵遊戯「みそ音」



地図の出典：NAVITIME ホームページ <https://www.navitime.co.jp>

麵遊戯 みそ音



場 所：愛知県碧南市金山町 1-30

Apan21 碧南店內

営業時間：11:00～15:00、17:00～21:00

定 休 日：月曜日

パチンコ屋さんの店内にあるお店。
味噌がメインだが、醤油、つけ麺もある。
太麺でボリュームたっぷり。
特製味噌らーめんとチャーハンがよく出るのだそう。
店主は優しい顔をした真面目そうな方。
HP に乗せたいと相談したら、快諾をいただき、半チャーハンまでご馳走してくれました。

特製味噌らーめん



券売機で食券を購入するタイプ。
メニューは豊富、トッピングも選べる。
セットメニューもあるが、今回は一番人気の
「特製味噌らーめん」にしました。
大きなチャーシューと煮卵が目を引き、コーンバター
の香りが食欲をそそります。
麺は太麺で、もやしとコーンでボリューム一杯。
おまけに付けてくれたチャーハンはパンチが効いていた。
席はカウンターがメインだが、4人掛けのテーブルもある。
パチンコ店の客が昼時につぎつぎやってきました。